

暑さに負けない！ 彩のかがやき栽培暦

早植栽培

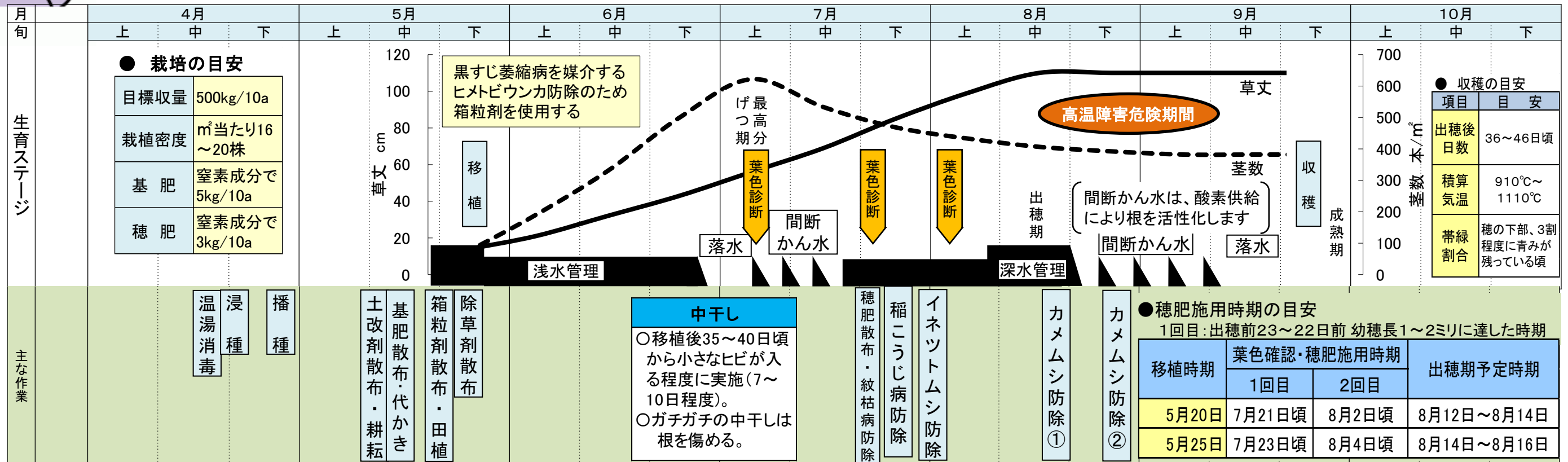
暑さ対策の
2大ポイント

移植期を遅らせることが有効な手段
出来る範囲で移植を遅らせよう

※農業用水の取水期間・量は地域毎に決まっていますので御確認下さい

葉色の低下は高温障害の危険信号！
葉色診断による追肥を
確実に行おう

埼玉県マスコット「コバトン」



穂肥						
○上表「穂肥時期の目安」および下表「葉色診断による追肥方法」を参考に実施！ ○一発肥料の場合も葉色4以下の場合は穂肥を行う。						
● 葉色診断による追肥方法(追肥量は窒素成分、葉色は群落値)						
時期	移植後40～45日頃		穂肥① 出穂前23～22日		穂肥② 出穂前15～10日	
葉色	4.5以下	4.5以上	4以下	4以上	4以下	4以上
追肥	2kg/10a程度を追肥	追肥は行わない	3kg/10a程度を追肥	4以下になるまで追肥は行わず、4まで低下したら2kg/10a程度を追肥。	2kg/10a程度を追加施用	追肥は行わない

注 1. 穂肥①施用時の葉色が著しく低い場合(3以下)は穂肥②を出穂前15日頃に行う。

出穂～収穫までの水管理
○穂肥施用後～出穂後7日までは湛水状態を保つ。 ○出穂後7日以降は水を入れっぱなし、張りっぱなしにせず、田に入水したら水口を閉めて断水し、自然に落水させる間断かん水を行う。 ○間断かん水は一週間を1サイクルとし、3～4日ごとに湛水と断水を繰り返す。 ○完全落水は収穫10日～2週間前とし、早期落水は絶対に避ける。

収穫
○この品種は穂下部の帯緑が抜けにくいいため、穂全体が黄化するまで待つと刈り遅れとなるので十分注意する。 ○特に高温時には登熟日数が極端に短縮することもあるので、注意！

秋耕
○稲刈後、秋の間に稲わらや籾殻、稲株をすき込む。 ○秋耕を行うことで冬の間に稲わら等の分解が進み、水田の肥沃度向上や、次作水稻のガス害や窒素飢餓の防止となるとともに、温室効果ガスであるメタンの排出が削減できる。